

テーマ「成田空港の機能強化と地域経済等への波及効果について ～関係者が取り組むべき課題～」

➤ 令和8年2月17日開催

➤ ゲストスピーカー 成田国際空港株式会社 上席執行役員 片山 敏宏 様

1.成田国際空港について

■ 成田空港の概要と役割

- ✓ 1978年に国際線の専用空港として開港し、日本最大の国際空港としての役割を果たし続けている。
- ✓ 国際線旅客数は国内主要港の約3割のシェアを占める。世界との比較では、首都圏空港として成田と羽田を一体で見ると、2023年の世界空港評議会空港ランキングで11位の規模となっている。
- ✓ 貨物取扱高（金額ベース）は、航空・海上を含めた港として国内最大規模を誇っている。

■ 成田空港の特徴（ビジネスモデル）

- ✓ 空港基本施設（滑走路等）・ターミナルビル（旅客・貨物）の管理・運営をすべてNAAグループ（※）で担う「会社管理空港」（羽田空港は「国管理空港」）。
- ✓ 免税店などの商業収益を空港施設整備・航空サービス充実等へ再投資することによる航空収入の増加と、発着数・旅客数の増加によって非航空収入の増加が循環する、持続的なビジネスモデルを形成。

（※成田国際空港株式会社（NAA）を中核とする、成田空港の運営・保守・商業・周辺サービスを担う企業群）

■ 「3つの危機」を経験

- ✓ 開港時の激しい反対運動と平行滑走路建設の難航による発着回数の限界（新規就航数の停滞）。
- ✓ 2010年の羽田国際化による日本人のアウトバウンドの奪い合い。
- ✓ コロナ禍による需要の消滅（旅客数、発着回数の激減）。

2.成田空港の更なる機能強化と「新しい成田空港」構想

■コロナ後の旅客動向・航空ニーズの変化

- ✓インバウンドは急速に回復する一方で、日本人の海外渡航は緩やかに回復する途中。
- ✓LCCやセカンドブランド航空会社が順調に成長し、本邦主要航空会社のシェアが低下。

■増大する首都圏航空需要と羽田の容量限界・成田の役割

- ✓中長期的に世界の航空需要は増大しており、我が国の国際競争力維持・観光立国のために首都圏空港の機能強化は必要不可欠。
- ✓羽田の国際線は既に発着回数の伸びが限定的になっており、拡張余地も限られている。
- ✓今後増加が見込まれる航空需要と外国人旅客への対応については、成田が受け止めていく必要がある。

■今後の整備計画（新しい成田空港の構想）

- ✓B滑走路の延伸およびC滑走路（3,500m）の新設により、年間発着枠を30万回から50万回へ拡大。
- ✓新貨物地区の整備により、航空物流機能を集約（圏央道 I Cとも直結）。
- ✓成田空港のアクセス交通機関の改善（更なる輸送力強化のためには、鉄道の単線区間の解消が必要）。
- ✓将来的には現ターミナルを運用しながら段階的に「ワンターミナル」に移行し、利便性・快適性・体験価値の向上を追求。

■エアポートシティ構想

- ✓地域や従業員にとって住みやすい街づくりと空港を核とした産業誘致を進める「エアポートシティ」の形成を、「新しい成田空港」構想の1つとして検討。
- ✓2025年にNAAと千葉県で「NRTエリアデザインセンター」を設立し、エアポートシティの具体化に向けた検討を本格化。新しい成田空港構想による効果を空港のみならず周辺地域にも波及させるため「暮らし」「産業」「インフラ」の各分野における取り組みを推進。

3.主要課題と対応（人材・地域共生）

■2030年インバウンド6,000万人の政府目標に向けての課題（人材不足）

- ✓政府目標から逆算すると、2027年度には、成田空港国際線だけで4,000万人の利用者が見込まれる。空港の施設面（搭乗手続、鉄道アクセス等）や運用上の課題があり、関係事業者や国が一体となった取り組みが必須。
- ✓空港関連従業員はコロナ禍により人材が流出（約7,000人減少）したため補充が必要であることに加え、現行のインバウンドの急増対応だけでなく、今後の成田空港の機能強化に対応するため、将来的には現在の約2倍となる7万人程度の従業員確保が必要。
- ✓上記従業員の確保とともに、空港勤務は、夜間勤務やシフト勤務が多いことから、近隣に居住できる環境整備が重要。

■課題に対する取り組み

◆プラットフォームとしての取り組み

- ✓NAAがプラットフォームとして、グランドハンドリング会社の新規誘致、マッチング（※）等に積極的に関与。
（※NAAが、グランドハンドリング会社の応需能力を時間帯別に把握し、航空会社の希望に即したグランドハンドリング会社を紹介）

◆空港能力拡大に向けた人員確保

- ✓発着回数50万回達成時の人員約7万人確保のためには、①空港が地域と一体となった人員確保、②従業員の受け皿となる周辺地域の住環境、空港内の待遇改善、③空港DX推進による自動化・省力化の検討が必要。
- ✓「空港で働く魅力」と「空港周辺地域に住む魅力」をセットで発信し、空港全体で採用活動を推進。
- ✓地域と連携した空港業務の魅力発信や空港内従業員の交流促進など、実験的な取り組みを進めている。